

日本人清友会の歌

東の原若菜

*Song composed
written after his first real account of
experience to Ben Mt.*

空はともれど気概ははれぬし

老若男女の同胞が

心のそこのほほえみと

ただええ何うまちぬる人

サア葉りませやこのふねに

をしこバドソンのぼりませう

善見会長の指揮のれと

~~舞~~ 踏もじませ 福びかり

~~サ~~ アサアサアさんおどませう

うれしくおあしとけふの日を

x x x

かほや次女は居ませぬと

集る目的みなあなじ

お下ごさりの日中ト人

坊ちゃん嬢さんお母ちゃん

無禮床免の日中ト法で

心のおざりどおなりませ

妻たかどと昌へませ

心のおざり笑ひませ

サアサはアーンおびませる

うぬしくおましくけふの日を

x

x

x

ハドソンのぼれば河がしの
な
詞めあざやあかおとし

秋の霞のほく川

馬士纏 けりやとうたかける

見ゆる ^{そあ} 白 ^{さか} べのいへくは

山に北 ^{そあ} きり ^{そあ} わ ^{そあ} 水に ^{そあ} 郷 ^{そあ} 向 ^{そあ} く

景に情 ^{そあ} あり ^{そあ} 情 ^{そあ} に ^{そあ} 景 ^{そあ} 色 ^{そあ} かな

古な心地 ^{そあ} あり ^{そあ} 景 ^{そあ} 色 ^{そあ} かな

船 ^{そあ} 木の葉 ^{そあ} を ^{そあ} か ^{そあ} へ ^{そあ} す ^{そあ} 秋 ^{そあ} 凡 ^{そあ} に

船 ^{そあ} は ^{そあ} 矢 ^{そあ} づ ^{そあ} れ ^{そあ} 着 ^{そあ} き ^{そあ} け ^{そあ} る ^{そあ} は

森林眺 ^{そあ} め ^{そあ} 園 ^{そあ} と ^{そあ} か ^{そあ} や

サアサ ^{そあ} は ^{そあ} さん ^{そあ} ち ^{そあ} が ^{そあ} り ^{そあ} ま ^{そあ} せ ^{そあ} う

三のついでに

テイリクタンに付ひがし

森林眺め園とかや

サアサヒロヤーン上りまをう

おへんとおげえお母ちんと

(四)

四
1934
e

休憩堂にあつた
四五百人の同胞は

主の祈り人に禮拜し

大
夕星やそと雲はゆるぬ
ほからか唱ふ讃美歌に

ミミユユのピクネツク

う道會の射的やう

運動競技など

おみだすやいほ唐を
見えん

おあぢやんおれは汽笛だよ
集はは郷音しホーホー

田のつにきり

比

サアサキくちやんかへりませう

おギ^サ立^サ枝^サのオレ^サチ^サかかへてぬ

サアサ^サ信^サち^サやんかへりませう

おみやのオレ^サチ^サかかへてぬ

カ.

サアサ^サ信^サち^サやんかへりませう

おま^サま^サ屋^サのオレ^サチ^サかかへてぬ

女のついでに

眠りもやらずたのしむ

春秋知らぬをやうなごは

位も竹たふれ母のひげ

蜜柑かかへと眠るやうま

しぢらしきとしい可成り

七時の鐘のねととも

船はかへりぬニヤミ

たのしつかや一同胞は

別れを惜みかへりけり

船はかへりぬ

未だひにふる友達と

またあふ日たのしみ

別れを惜みかへりけり

斜め青る日は早やとわ

光は空のとしにのみ

雲のゆくへを待たむれば

よそ来りしは涙のみ

羽凡やびしやうぢの

人目も草に枯れる秋

時にかへる路馬のこゝろ

キキ、こゝろほす旅の袖

秋を知らざるわがびとは

いれん哉まごの春の世と

舞踏に舞踏かきおつ